

令和5年度 学校評価における自己評価について

学校法人翔英学園 認定こども園みずほ幼稚園

1 教育理念

本園は教育基本法、学校教育法に基づき、幼児の望ましい経験を通して心身の発達を図り、豊かな人間形成の基礎を築くことを目的とする。

2 本園の教育目標

明るく、元気で心身共にたくましい、人間性豊かな子どもを育てる。

3 めざす子ども像

1. 明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子
2. 園生活を楽しみ、身近な人に愛情や信頼感を持つ子
3. 身近な環境に親しみ、好奇心や探究心を持って関わり、よく考える子
4. 感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな心を持つ子

4 本園の特色

1. 自然の中へとび出す保育
2. 元気な体をつくる保育
3. 温かい手づくり保育
4. 友だちをいっぱいつくる保育

5 本年度の教育重点目標

○感じたことや考えたことを自分なりに表現し豊かな心を持つ

- ・ 仕草や動きで自分の思いを表現しようとする。(0歳)
- ・ 指さしや片言で自分の思いを表現しようとする。(1歳)
- ・ いろいろな遊びをやってみようとする。(2歳)
- ・ 感じたことや考えたことを、自分なりの方法で表現しようとする。(年少組)
- ・ やりたいことや考えていることを、いろいろな方法で表現しようとする。(年中組)
- ・ 様々な体験を通して豊かな感性を育み、表現することを楽しむ。(年長組)

6 園が重点的に取り組む目標

- ・ のびのびと遊べる環境下で、子どもの興味・関心・意欲を見守り、探求心を育てると共に、イメージ豊かに遊びが繰り広げられるような援助及び環境構成を行う。
- ・ 子どもたちが、互いの良さを認め合う関係性の構築を図るため、職員の肯定的な言葉や態度で、子どもたちと関わる姿勢を心がける。
- ・ 未満児の少人数(高月齢・低月齢)の遊びや一斉の遊びにおいて、環境構成を工夫する。
- ・ 子どもたちの保育・教育の環境構成や教材研究に積極的に取り組み、長時間保育の生活リズムや心身の状態にも配慮をしていく。
- ・ 保育の質の向上に組織的に取り組み、振り返りにより保育内容の改善や役割分担の見直し等を行い、職務に応じた知識及び技能を身に付けていく。
- ・ 園内研修や会議の取組み内容を明確にして、有効的な会議の進め方、実践と評価、課題について検討や解決に組み、会議内容を全職員で共有できるようにする。

7 評価項目の達成及び取組み状況

教育・保育内容の充実	評価	取 組
園の教育理念・教育目標・方針に沿って教育課程が編成され、それを基に年間指導計画を作成し、月週案を随時評価し見直している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画が月週案に反映して、子どもの姿に即した内容になっているのかなど検討のうえ、月週案を立案している。また、月末には評価、反省を行い翌月・次年度につなげている。 ・0, 1歳児は月週案の様式について見直しを行い、週の保育がより明確になっている。
認定こども園教育・保育要領の内容を理解し、0歳児から就学前までの子どもの発達状況に即した指導が行われている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年にとどまらず全学年で、学期ごとに取り組みや課題の意見交換を行い、発達状況に合わせた指導を心がけている。 ・就学に向けて学期ごとに10の姿で子どもの成長を捉え、次の学期の課題を明確にするようにしている。 ・教育・保育指導要領の内容の理解を深めて、今後も教育・保育に努めたい。
職員間の共通理解のもと教育・保育にふさわしい生活環境の工夫・見直しを行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で子どもの様子や保育者の願いを伝え合い、育ちを促す環境の工夫や、見直しをしている。職員間で共通理解が必要な事柄は、終礼と園内連絡メールで全職員が把握し、見直しを行っている。
季節ごとに植栽を行い、園内の自然環境の充実を高め、保育の中にも活かし豊かな体験活動を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・0, 1歳児はプランター栽培で収穫の喜びを体験できた。2歳児以上は子どもたちが畑を耕す経験もおこない、生長を楽しみに育て食育につなげる活動ができた。 ・梅、どんぐり、柿の実をみたり収穫したりして、園内の豊かな自然の恵みに触れることができた。
日常の保育や行事において、学年・縦割りグループ等を編成して、異年齢の園児同士が関わる活動を工夫している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・0, 1歳児の誕生会には毎月、年長児にお祝いの歌をうたってもらい交流することができた。 ・遊びの時間に異年齢の関わりが持てるような環境は、日常的につくられている。2学期からはニコニコグループで異年齢児と一緒に、お祭りごっこやゲームを楽しむことができた。
特別支援教育において、特別支援専門機関や家庭との連携を図り、個別の支援計画・指導計画を作成し適切な支援を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画・指導計画を作成し、専門機関、家庭、担任、加配保育者と連携を図り、支援の方法を考えたり、成長を伝え合ったりして適切な支援に努めた。 ・支援児の就学については、見学や体験を勧め、保護者も理解を深めたうえで、より良い就学先を検討し決定している。

<p align="center">地域で支える幼児教育の推進</p>		
<p>散歩や園外保育を通し、地域の人や自然と触れ合う機会を設けている。また、地域の行事に積極的に参加し、交流や文化等に興味・関心を持たせている。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・0, 1歳児は、毎週散歩に出かけ、四季を五感で感じたり、果樹を実際に収穫したりして、感動体験をすることができた。各学年とも園外保育に出かけて、四季折々の自然に触れて楽しんだ。 ・年中児は秋の交通安全運動、年長児は子育て王国とっとりフェスのイベントに参加し、歌やダンスを披露して社会の事象に触れることができた。
<p align="center">子育て親育ち支援の充実</p>		
<p>保育参観・家庭訪問・個人懇談・HP等を通し、保育の内容や情報を提供し、保護者の意見や要望等も受けやすくしている。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園での様子や行事をブログやクラスだよりで知らせ、教育・保育の内容や様子（子どもたちの学び）を発信した。 ・クラスの参観だけではなく、シャイニングキッズの参観日を設け、一年間の成長を感じてもらうことができた。
<p>連絡ノートを活用し、園や家庭での様子を伝合い、子どもの成長を共通理解している。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートを活用して、子どもの成長やエピソードを伝え、保護者と成長を共有することができた。
<p>未就園児親子参加の体験教室「はらっぱくらぶ」を実施し、幼稚園の活動の疑似体験や、子育て講演会・相談を行い、子育て支援の取組を行っている。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はらっぱくらぶでは、未就園児の親子が幼稚園の活動を体験したり、おもちゃや絵本の与え方を学んでもらったりして、子育て支援につなげている。 ・年長児が園歌や歌、踊りを披露し、園の雰囲気や子どもの成長を感じてもらうことができた。
<p>預かり保育(早朝・延長保育)の運営体制を整え、カリキュラムを基に預かり保育の充実を図る。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり担当職員が年齢、人数によって遊びの内容を工夫して、環境を整えるようにしている。 ・早朝預かりでは、2学年ずつ二箇所で行うことによって、新たな異年齢の関りが見られるようになった。
<p align="center">小学校教育との連携</p>		
<p>地域の小学校の先生や校長先生との連絡会を通し教育活動の進捗状況や子どもの姿について教職員が情報共有できる場を設け実践している。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への絵本の読み聞かせの訪問時に、子どもの様子を伝え合う、情報交換が持てた。 ・園の運動会、発表会に校長先生を招待し、年長児の様子から、就学前の子どもたちの育ちを見てもらうことができた。
<p>アプローチカリキュラムを基に、就学に向け幼小連携を意識しスムーズに移行できるようにしている。</p>	<p align="center">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米子市のオープンスクールには、ほとんどの年長児が参加して小学校を身近に感じる良い機会となっている。 ・小学校との交流は一回できた。2学期後半にもう一回、交流の計画が立てられたように感じる。

幼稚園と小学校のお互いの行事を連絡し合い、交流の場が出来るようにする。	A	・小学校見学や学校ごっこでは、実際に授業の様子を見学したり、小学校の先生の授業の模擬体験をしたりと、就学に向けて期待が膨らむよい経験となった。
保育者の資質向上		
教職員全員が園児の情報を共有し、共通理解を持ち適切に対応している。	A	・共通理解が必要な内容を終礼で伝え合い、さらに園内連絡メールで、全職員が共通理解し対応するよう努めた。
園外研修に参加する機会を確保し、職員の資質向上に取り組む。研修会参加後に情報共有し、内容を共通理解していく。	A	・研修会参加後は、できるだけ短時間でも、研修で得た内容を伝え合う工夫をし、職員間の学びにつながるようにした。多くの研修に参加する機会が作れた。
安全管理		
危機管理マニュアルを基に防災計画を作成し適切に実施している。	A	・年間計画を見直し、マニュアルを基に防災訓練を実施することができた。課題であった引き渡し訓練も今年度は実施することができた。
職員が定期的に園内外の遊具の点検をし、安全管理の徹底を心がける。職員が日頃から、安全教育に関心を持ち、安全対応能力の向上に繋がるようにする。	A	・園内外の遊具の点検のほかには保育室、廊下、ホール、駐車場など園の全施設の点検を、12月から毎月実施して安心安全な生活環境を心がけた。 ・点検後の注意箇所ですぐに修繕に取り掛かれないこともある。速やかに安全に生活できるよう、職員間での共通理解が必要となる。

8 総合的な自己評価(結果)

結 果	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・0, 1歳児は高月齢、低月齢に分かれた保育、一斉の保育など、遊びの内容や環境構成によって少人数に分け、月齢を配慮して保育を行った。保育内容も含め、今後も取り組み方の工夫をして、さらに新しいことも取り入れていきたい。 ・今年度は、2歳以上のクラスが校区の人権教育研究会で、公開保育を行った。指導案の立案および保育内容について園内研修を重ね、一人ひとりを大切に、子どもたちの夢中になれること、自らしようとする主体性を尊重した教育・保育の環境構成及び援助について学ぶ良い機会となった。 ・午後からの預かり保育を利用の子どもが増え、おもちゃの内容や教材について年齢に応じた環境構成をさらに工夫する必要がある。 ・連絡ノートを活用して子どもの育ちを家庭と連携しているが、コドモンの連絡ツールやドキュメンテーションを活用するなど、情報共有の方法や内容も今後検討していきたい。

9 今後取り組むべき課題

<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した行事への取り組みについての再検討。 ・預かり保育のカリキュラムの見直しをしていきたい。
